



宮原良治司教認可
発行所 福岡司教区本部
福岡市中央区浄水通 6-28
発行 人
カトリック福岡司教区
編集人 森山信三
TEL 092-522-4059
FAX 092-523-2152
振替口座 01760-6-20729
カトリック福岡司教区
定価 一部 60円

10月の意向

【一般】 絶望のうちにいる人々
【宣教】 世界宣教の日
【日本の教会】 諸宗教の尊厳
【教皇様の意向のために祈りましょよ】

折りといじめからカトリック園の使命を探る
教区幼児教育連盟教師研修大会



猛暑の続く8月27日から2日間にわたって、第27回カトリック幼児教育連盟の教師研修大会が、小倉のホテルを会場として開催された。テーマは「カトリック幼稚園、保育園の使命と折り、いじめ（虐待）について」で、教区内の幼稚園、保育園53園から保育に携わる教職員380人が集った。1日目の講話は「祈りについて」で、英隆一郎神父（イエズス会）は「祈りの習慣を身につけるのがカトリック幼稚園の使命である。神さまからの計り知れない恵みに気づき、感謝する『ありがとう』。反省し、ゆるしの

つ、答えたいと思います。「そう、それはすべての人ができることです」。より小さい人々からより大きな人々まで、国の指導者と呼ばれている人々まで、答えることを望みます。「はい、それを望みます！」と。わたしのキリスト者としての信仰は十字架を見つめるようわたしを押し動かします。すべての善意ある方々が、一時でも十字架を見つめようとするのをわたしは望んでいます。そこでは神の答えを知ることができま



3年目を迎え、継続してカトリック教育について学ぶ
カトリック小中高校中堅教職員研修会

福岡教区内にある、9つのカトリックの小・中・高校で働く教師たちが、カトリック教育について学ぶ、福岡教区カトリック学校中堅教職員研修会が今年度も開催されている。今年で3回目を迎えるが、宿泊研修を含めて年間3回の研修が行われる予定である。今年度の第1回は6月18日に大牟田の明光学園中学・高等学校で開催された。宮原司

教皇フランシスコ
シリアと世界の平和のための
祈りの講話（9月7日・抜粋）

：わたしたちは平和の道を歩むことができるでしょうか？悲しみと死の連鎖から抜け出すことができるでしょうか？もう一度新しく、平和への道を歩み、生きることを学ぶことができるでしょうか？平和の元後のまなざしのもと、神の助けを願いつ

でもって答えてはならず、死には死の言語で答えてもなりません。十字架の沈黙のうちに、兵器の大音響は鳴り止み、和解、ゆるし、対話、平和の言語が語られます。今夜、主に願いましょ。わたしたちキリスト者その他の宗教の兄弟たちが、すべての善意ある方々が、力強く叫ぶことを。「暴力や戦争は決して平和への道ではない！」と。すべての人が深みにある良心を見つめ、そこで次のように語ることを聞きましょう。心をかたくなにする利己心から抜け

た。HUGは百薬の長なり、と言われる。自然や友だちと戯れ、遊び、けんかし、ゆるしいなどたくさんあることを体験し、学んでいく大切な幼児期を預かる保育者にとって貴重な学びのときとなった。各講話の後、10人ずつグループに分かれ、それぞれの思いを分かち合った。研修会の最後には、宮原司教司式で、参加の司祭団とともにミサが捧げられ、一同、新たな力をい

出し、他者への思いやりをなくしてしまふ無関心を克服し、死の論理に打ち勝ちなさい。兄弟の、特に子どもたちの苦しみをなさい、そしてこれ以上の苦しみを加えてはなりません。あなたの手を止め粉々になった調和を再建しなさい。そしてそれは、対立によってではなく、対話によってです！武器の騒音をやめなさい。戦争はいつも平和を粉々にすることを意味し、いつも人類の敗北でもあります。：ゆるしと対話と和解は平和のことばです。：

時の話題

小松 悟

ある土曜日の夕べのミサに子ども3人を連れて行ったこと。その日は、一日中雨の日で子どもたちも遊び足りないよう

着きました。が、また騒ぎ始めたのです。これから、ミサが始まることです。私も妻もよく教会に子どもたちを連れて行き、園庭で遊ばせ、聖堂で祈るばかりではなく教会に親しみを感じてほしいと小さい時から足しげく通ってきたのですが、どうしたものか、いまだ一向におとなしくしてくれません。それどころか、彼らにしてみれば「いつもの楽しく過ごせる教会」みたいで、まったく緊張感のない様子です。親しい一人のおじちゃん

注意してくれました。私はそれを、少し離れたところから見守っていました。子どもたち二人で考えたのか、赤ちゃんがいる泣き部屋の方へ行ったので、ようやくわたしも、静かになった状況にホッとしました。今までは、すぐにげんこつをして黙らせていましたが、これでは子どもたちに祈りを教えることより、かえって逆に「祈りなんかしない」とか「もう教会なんか行かない」と言われてしまい、子どもたちや妻の反感を買い、自分の意思とは真逆な結果になっていたのです。（次号に続く）



の成熟と諸宗教への理解」という現代のカトリック教育の目的について、また福音宣教におけるカトリック学校と教会のより積極的なつながりの必要性について語られた。さらにカトリック教育において教育の主体は常に家庭におかれているというのを改めて強調されていた。つづいて新潟・糸魚川教会の伊藤幸史神父が、「食と救い」風土食（フード）の祈り」と題して、食が現代の家庭や社会の中で希薄になりつつある「生への肯定感」を取り戻すための大事な場となっていること、そしてカトリックは「イエスの食卓」への招きを通して救いへと結ばれていることを、豊富な映像や写真を交えつつ説明された。それぞれの講話の後は各学校の教員がグループに分かれて分かち合いを行った。そのなかで洗礼を受

けていない教員の多くが、第二バチカン公会議を含めた教会の歩みを知らないという実態や、もつと知りたいという希望が出てくる一方、教育の現場において食がもつ力についての経験や食をクラスや学年で生かすアイデアが分かち合われるなど、活発な意見交換が行われていた。

9月8日（日）朝3時4分、久留米の聖マリア病院で肺炎のため帰天。享年88歳。1925年3月28日長崎県生まれ。4月5日に浦上教会で受洗。37年に福岡教区の神学生として泰星中学に入学。兵役を経て、52年3月19日に浄水通教会にて深堀仙右衛門司教より司祭叙階。司教館付きとなり、2年間病氣療養。55年から呼子、本郷、健軍、浄水通教会の各主任司祭を歴任。82年司教総代理として司教館付きとなり、教区のために尽力、77年から85年まで本誌編集長を兼務。84年には老司教会の主任もピンチヒッターで半年間兼務した。88年から光丘、久留米、茶山の各教会主任司祭を歴任。2011年9月に現役を引退し、新しく完成した司祭の家で静養されていた。



フランシスコ・ザビエル
山田成章神父帰天

シリアは泥沼の内戦状況となり、化学兵器が使われた疑いでアメリカの介入が危惧されたが、当面回避された。最近、ヨハネ23世教皇の回勅「パーチエム・イン・テリス 地上に平和を」が新しく翻訳され、読みやすいものとなっている。ヨハネ23世教皇は、第二バチカン公会議を開催すると宣言されて、教会内外を驚かせたばかりではなく、カトリック教会の刷新を成し遂げられた偉大な教皇である。同時に、キューバ危機を米ソに回避させた教皇としても知られる。この回勅はまさにそのような時期に発表された。教皇はこの回勅の中で、世界の紛争は、武力に頼るのではなく、対話と信頼そして交渉によって解決されるべきであると繰り返し述べておられる。公会議中途で死を感じられた教皇は、この回勅の草案執筆チームに作業を急がせた。そして、無信仰者や、キリスト者と異なる考えをもつ者との協働の部分（82番）では、自ら手を加えられたと言わ（解説133ページ）。いわばこのメッセージは同教皇の遺言とも言えるであろう。また、東西冷戦の真只中に紡ぎだされたこれらの言葉は、歴史に学ぼうとしない現代社会にも新鮮に響くものがある。教皇は、死期が近づいたことを悟り、次のように日記に記された。「最後の審判のときに問われるのは、一致を実現することに成功したかどうかではなく、一致のために祈り、働き、悩んだかどうかである」と。世界の、特に中東の平和を真剣に祈ろう。そして平和のために私たちができる小さな行いを実践していきたいと思う。 M

WYDリオデジャネイロ大会



7月23日から28日までブラジルのリオデジャネイロで開催された世界青年大会（ワールドユースデー・WYD）には、世界中から若者たちが300万人以上集結した。日本公式巡礼団は大学の試験期間等と重なり、62人と少数であった。教区からは3人の青年（1人は東京在住）、竹内・田中の両神父が参加した。

一行は7月19日に出発してサンパウロに集結。日本移民の歴史学習と日系人との交流からプログラムを始めた。その後、アパレシダーの聖母巡礼地に立ち寄りながら、リオ

に向かつて14時間のバス旅。リオに移動後、宿舎とカテケージスの会場として街の中心にある一つの小教区が指定されたが、ほとんどの参加者は近くに住む信者宅にホームステイとなった。ほとんど、あるいはまったく英語のできない方が迎え入れてくれた。また、小教区としても、現地の日本領事館と連絡を取りながら、迎える準備をしていた。本プログラムでは、開式ミサに始まり、3日間にわたる司教によるカテケージスと分かち合い、アジアの青年との十字架の道行き、そして、教皇とともにした夕の祈りと主日のミサと、信仰を見つめ

人々とのかわりを見つめる日々を過ごし、31日に帰国した。人数が少ない分、お互いに深く交流もでき、とても良いWYDとなったという感想が多く寄せられていた。

☆ ☆

信仰の遺産

稲垣 良典

カテキズムを学ぶ①

「信仰の遺産」という言葉は教会の内部でもあまり使われないようになってきているので、何のこともない、といふか、人々が多岐にわたる。簡単に言うとなら、よく耳にしたり、口に出したりする「福音宣教」の「福音」のことである。では「福音」を「信仰の遺産」という耳慣れない言葉で置き換えることにどういう意味があるのか、またそんな必要があるのか、と問いつた。それは、私自身は、「福音宣教」という時の「福音」の意味を取り違えないために大いに必要である、と考

えているので、そのことについて少し説明させていたいただきたい。「福音」とは、イエス・キリスト自身が宣べ伝え、弟子たちに「全世界に行つて、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」（マルコ16・15）とお命じになった「悦ばしい訪れ」であり、そしてイエスご自身この福音を「神の国は近づいた、それはあなたがたのうちに実現されている」という言葉でお伝えになったことは誰でも承知している。しかし、この言葉が私たちにとって本当に「悦ばしい訪れ」つまり、真実に救

私は今回、ブラジルで行われたワールドユースデーに日本公式巡礼団のひとりとして参加しました。長期間海外に行くということ自体が初めてだったので、期待半分、不安半分というところでした。

30時間を越えるフライトの後にブラジルのサンパウロに到着して、まず感じたのは現地の方々の優しさでした。日系ブラジル人の方々の熱いもてなしに、フライトの疲れも吹き飛びました。歌やダンスでの楽しい歓迎、美味しい料理。私は一気にならなりました。出来そうだと感じました。

移動したりリオデジャネイロでも人々の優しさに触れることが出来ました。主として泊まっていた場所では、現地の神父様が自ら食事の用意をしてくださって、私達を迎えてくれました。ブラジルは季節が逆で寒いので、日が落ちた夜になつたりするととても冷えます。寒さに文字通り震えながら帰って来た日に出了る温かいスープを飲みながら感動して涙が出そうになったことは昨日のことのように

いといのちの言葉であり得るのは、それを告げられたのがイエス・キリストだからである。従つて福音を本当に福音として受け止め、宣べ伝えるためには、イエス・キリストはどのようなお方だったのかを知ることが何よりも必要であることがわかる。そして、そのためには「信仰の遺産」に目を向ける必要がある、と私は考えている。

思い出されます。カテケージスで司教様方のお話を聞いてその後にグループで分かち合いをして信仰について改めて考え直したり、徒歩移動中にグループの友達とキリスト教について話し合ったりもしましたが、やはり一番に残つて強く考えることになったのはフランシスコ教皇様の司式ミサです。電車の中でも、会場のコパカバーナビーチへ向かう最中の道路でも、みんな歌つています。街全体が教皇様を迎える、という気持ちでひとつになつていて、まるでお祭りのようでした。確実に日本には足りていないエネルギーと躍動感を、これからどう伝えていけばいいのか模索中です。

そして、言葉も違う、習慣も違う、肌の色も何もかも違う世界中から300万人（公式発表）の人々が集まつてひとつの考え、ひとつの方向に向いているということとても感動しました。

最後にありますが、今回の巡礼に参加するにあたって募金をしてくださった方々、お祈りを捧げてくださった方々に厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございます。浄水通教会 城島有

努力しようと思います。古賀教会 中村祐善

FYCCも今年で11回目 神様もみんなもそばにいますよ！



8月9日（金）～11日（日）に福岡地区青年会主催のFYCC11（福岡ユースカトリックキャンプ）が日本カトリック神学院福岡キャンパスで行われました。11年前に、中高生達に教会の楽しさやたくさん仲間がいることを知ってほしい、教会を離れがちな中高生達がこれをきっかけに教

「信じ」それを伝えようとしたのか、が何よりも問題にならざるを得ない。それがテーマに「ゆだねられたもの」つまり「信仰の遺産」なのである。そしてパウロ自身、宣べ伝えるべき「福音」の中心、というよりその全てが「私たちの罪のために十字架につけられて死に、3日目に復活されたキリスト」である、と宣言しているのであるから、「信仰の遺産」の受取人である我々にとつて何よりも大事なことは、真実のキリストと出会うことである。ちなみに「信仰の遺産」という言葉が最も身近なところで使われているのは「カトリック教会のカテキズム」の公布に当たって発表された「使徒憲章」の冒頭においてである。

会を好きになってくれたら、そこにある神様のお恵みに気づいてくれたらいいなあという気持ちから始まり、この夏で11回目の開催でした。今年のテーマは「みち」。代表の吉田由美香さんを中心にたくさん青年の仲間達と一緒に準備を行いました。特に今年は、初めてスタッフをする青年、初めてFYCCに携わる青年が多かったと思うように進まない事もありました。それでも、それぞれが当日出会う中高生の事を思い浮かべ、楽しみにして準備をしました。

当日は、37人の中高生と一緒にレクレーションや体験学習、バーベキュー、光の集い、肝試しなどもあり、盛りだくさんのプログラムでみんなと仲良くなれました。講話と分かち合いなどではひとりじゃない！ということをとて感じることが出来ました。また、最後のミサでは派遣の歌に「信じて」を歌った。何よりも3日間、中高生と一緒に過ごせて楽しかったです。FYCCでは、青年のなかま達といろいろ考えたり、神父様やシスターに手伝ってもらったり、お母さん達がご飯を作ってくれたり、いろんな小教区の信者さんが協力して下さったり、本当にたくさんの方に感謝です。

これから先も未知なる道で迷うこともあるかもしれないけど、ひとりじゃないし、神様が「みち」を照らしてくれていると思います。これから中高生とはもちろん、たくさんの方々と、そして神様と繋がっていたいと思えるキャンプでした。

黙想会のご案内

★奉獻生活者のための黙想会
・11月22日（金）～12月1日（日）費用：8万円（指導：御受難会 中村克徳神父）
★一泊黙想会（指導：御受難会 中村克徳神父）
10月26日（土）16:00～27日（日）15:00 費用8,500円
※11月8日（金）日帰り黙想会は都合により取りやめとなりました。
詳細は下記へお問い合わせください。

カトリック御受難修道会・福岡黙想の家
〒811-4155 宗像市名残1056-1 Tel 0940-32-3222 (9:30～16:30)・Fax 0940-32-3385
Eメール fmokuso@mvi.biglobe.ne.jp

ミサ用ワイン

ヴァイノ デ ミサ
VINO DE MISA
スイートタイプ（赤）（白）
ご用命 お問い合わせは
有限会社 **大楠酒店**
ヨハネ 青木 彰

〒815-0082 福岡市南区大楠2丁目4番8号
電話 092-531-4718 Fax 092-521-6453

別れ・出逢い・旅立ち

草苑

カトリックのご葬儀
互助会制度もご利用できます。
木下株式会社
TEL 092-526-5656
〒810-0016
福岡市中央区平和3丁目1-5

福岡地区カトリック女性の集いの「博多にきんしゃい」
被災地福島の子どもたちを福岡へ！



お姉さんに連れられて大濠公園へ。さすがに3歳のM君は夕食の時眠りこけて食事が進みません。

28日(日)大名町教会で全員ミサに与りました。ミサ後教会学校の子どもたちとの交流会。福島からの子どもたちももうすっかりなれ、福岡の子どもたちからももらった飴のレイを首に笑顔で応えていました。午後1時には空港へ。また「福岡へいらっしやうい」……

この3泊4日私達は子どもたちのあふれるエネルギーに付き合ひ、ご両親とはお買い

福岡地区平和の集い

角田茂子



福岡地区信徒使徒職協議会主催によるカトリック平和旬間企画「平和を祈る集い」が8月10日(土)大名町教会で行われた。今年の主題は「昨

年、昨年に続き原発問題。集いは二部構成で企画がなされ、第一部では講師・金澤弘子さん(白河みずく)によるテーマ「福島の実実その叫び」心へへの聖地その希望」の講演。第二部では福岡地区カトリック女性の会による企画「被災者保養プログラム」が「博多にきんしゃい」の心のほのおを燃やし続けようとのテーマで目良信子さんの報告が行われた。金澤さんの講演は「今も福

物に付き合ひ、懇親会で飲んだり食べたりおしゃべりしたりしながら分かち合う事ができ笑顔笑顔の毎日でした。この「博多にきんしゃい」プログラムを行うにあたり、各小教区の皆様そして多くの方面からの寄付に支えられ、また全体通して延べ700余人のボランティアの方々のおかげにいただきました。本当に「聖霊」が働いて下さったという思いでいっぱいです。

親たちとの話の中で一向に変わらない福島の実実をお聞きし、私たちに出来る事はまだまだあるという思いを強くしました。福岡地区カトリック女性の会

福岡地区平和の集い

角田茂子

島の苦しみを忘れないでほしい」という言葉で始まった。その苦しみを決してマスメディアでは知らされていなかった現実であった。「原発事故の真実を何も知らされずに移動を強要され白河の仮設住宅に17回も引越したを重ね、やっとたどり着いた人」「原発事故の調査に甘言にのせられ猛毒の中で働かされた後、被爆手帳を渡され使い捨てされる人々」「結婚破断の現実と結婚の可能性に希望を捨てない青年」「防護服を着

「平和の集い」が、8月11日(日)、佐賀教会信徒はじめ、佐賀地区内の信徒も交え約80人の参加者で開催された。



佐賀地区平和の集い

新旧2人の高校生平和大使を招いて

「平和を祈る集い」が、8月11日(日)、佐賀教会信徒はじめ、佐賀地区内の信徒も交え約80人の参加者で開催された。

「平和の集い」が、8月11日(日)、佐賀教会信徒はじめ、佐賀地区内の信徒も交え約80人の参加者で開催された。

たまま終息宣言をする首相「放射性物質の最終処理が決まらないなか、俺たちは死んでも難民だと呟く被爆老人」「そして余りにも強い報道規制による隠された真実」「その場にイエス様が居られたらきつと怒りをぶつけられたに違いない行政の対応」などである。改めて福島の実実を語った。第二部で報告された福岡地区女性の会による保養プログラムは、一年間の色々な行事も含めた準備、そしてその準備や当日のプログラムに關わって下さった延べ700人のボランティアの働きと努力によって実った企画であった。目良さんは7月25日から28日までの内容を福島の親子の笑顔に満ちたスライドを披露しながら説明した。終了後にあるお母さんからの手紙に書かれた「私たち家族にとつては素晴らしい夏休みの思い出になりました」との感謝の言葉が紹介され、最後の目良さんの「福島に寄り添いたい」との思いで一年間歩んで来ました」との言葉が、金澤さんの「忘れないでほしい」との言葉に繋がる報告であった。

今回の集いでは「福島の人々の苦しみを救うのは原発の廃止に努めることだ」との思いをとても強くした。

筑後地区教会親善スポーツ大会

角田茂子



笑ひあり、踊りあり、汗を流して交流

次に、今年の第16代平和大使の古川慧月さん(武雄高校2年)が、2013年度の署名と、署名して下さった方々の平和に対する思いを、ジュネーブに届けたいという抱負を語った。

9月8日(日)、今年も大刀洗町のドリームセンターを借りて、鳥栖教会と筑後地区6教会が親善スポーツ大会を行った。初めに2階で合同ミサが執り行われた。集まった約500人の信者でいっぱいになった講堂で、フランシスコ教皇の平和への願いと当日未明に亡くなった山田成章神父の帰天と筑後地区教会の発展を意向として熱心な祈りが捧げられた。ミサに参加した信徒の一人は、「この類のミサに初めて参加しました。筑後地区の皆さんと一緒に祈れることに感動しました。同じ神様を信じている人が近くにこんなにくるさんいるなんて驚きです」と、喜びを隠せない様子だった。また、山田成章神父の逝去について、「いい神父様だった」と口々に上っていた。

が被爆者の生の声を伝えることができる最後の世代」という使命感に、参加者一同は希望と勇気を与えられた。また、長崎の被爆者の下平作江さんの言葉「平和とは、人の痛みが分かる心を持つことです。二度と被爆者を作らないで下さい」を「平和の財産」として、集いの参加者一同で分かち合い、参加者の一人ひとりが、それぞれの立場で平和を考え、祈り、行動することを中心に留めた充実した平和の集いだった。

信仰年も終わりに近づきましたが、行橋教会のホームページからベリオン神父様の記事をご本人の許可を得て、転載させていただきます。

50年前に開催された「第二バチカン公会議」と聞いて今、多くのカトリック信者の記憶には、何が残っているでしょうか。典礼は、ラテン語から自国語に変わった、その程度の記憶かもしれません。第二バチカン公会議は教皇ヨハネ23世のもとに、1962年10月11日に始まり2300人の司教が集まり、4年後の1965年12月8日、パウロ6世のもとで閉会された会議です。発表されたものは「憲章」4件、「教令」9件、「宣言」3件。日本語の訳では(ラテン語で100万字)400ページ近くものボリュームです。もちろん「文章」が多いからいい、ということではありません。大切なのは、その「文章」を生み出した新しい命の息吹である聖霊の導きと働きに気づき、そしてそれに従うことです。

信仰年を終えるにあたって
第二バチカン公会議とは？

- ① 信仰の中のイエスの位置(聖書の大切さ)「神の啓示に関する教義憲章」
 - ② 教会の真の伝統(伝統と習慣の違い)
 - ③ 聖霊の位置と働き(時のしるし)について新たな考えることを呼びかけました。
- 次に教会の態度について、教会は「謙虚」であることが望まれました。(すべての人にあてた公会議の教父たちのメッセージ)1962年10月20日(参照)過去の過ちを認めて教会は反省し、すべての人に貢献することを新たに決心しました。上から下へという視線を改め、敵対と警戒の態度をやめ、愛と信頼に基づいて現代のすべての人と穏やかに関わり合うよう心がけました。その態度の背景にイエスご自身とイエスの言葉に対する新たな認識が浮き彫りになります。「私の教会」(マタイ16・18)、「仕えること」(奉仕に生きること)(マタイ20・25)28・23・11、ヨハネ13・12・16)などです。(次号に続く)
- したが、信者の中に看護師や応急処置の資格を持つ方がおられ、救急車で搬送されましたが、処置が良かったので大丈夫でした。処置に協力いただいた信者の皆さん、ありがとうございました。暑い中、ご苦労をいたしました。なお、納骨のお知らせは2週間前までお願い致します。
- 福岡地区納骨堂管理委員会

教皇フランシスコ初の公式メッセージ
世界宣教の日(10月20日)メッセージ



親愛なる兄弟姉妹の皆様。
世界宣教の日を祝うこの

時、主との友愛のきずなを深め、勇気をもって福音をのべ伝える教会の旅を力づける大切な機会であるこの年、すなわち「信仰年」は終わりを迎えるようとしています。そこでわたしはいくつかのことを振り返ってみたいと思います。

1. 信仰は、神を知り、愛することができるようわたしたちの心を開かせる、神からのかけがえのない贈り物です。神はわたしたちとの関係に入り、わたしたちのいのちをもっと意味深く、良く、美しくするために、自らのいのちを分け与えることを望んでおられます。神はわたしたちを愛しておられるのです。しかし、信仰には、神の愛を生き、無限の恵みに感謝するために、一人ひとりがそれにこたえ、わたしたち自身を神にゆだねる勇気が必要です。信仰はわずかな人々のためではなく、惜しみなく与えられている贈り物のなのです。すべての人が、神に愛されるという喜び、救いの喜びを経験できるはずで、それは決して独り占めするようなものではなく、ともに分かち合うものなのです。もし人がそれを自分だけのものにしようとするなら、わたしたちは孤独で不毛で病んだキリスト者となってしまうことでしょう。福音をのべ伝えるということは、キリストの弟子であるということにすでに含まれているこ

とであり、それは教会の全生命に生気を与える恒久的の責務なのです。「宣教への熱意は、教会共同体が成熟していることをはっきりと表すしるしです」(教皇ベネディクト16世使徒的勧告『主のことば』95)。あらゆる共同体は、信仰を告白し、典礼の中で喜びをもって祝い、愛のわざを行い、とどまることなく神のことばをのべ伝え、自らの場を離れ境界の地へ、とりわけキリストを知る機会に恵まれなかった人のところへ神のことばを届けるとき、「成熟している」といえるのです。一人ひとり、そして共同体のレベルにおいて、他の人々に自分たちの信仰を伝え、愛のわざのうちにそれを広め、生き、わたしたちが出会い、いのちの道をともにする人々にあかしする力をもって、信仰の強さを確かめることができるのです。

2. 第二バチカン公会議開幕から50年後、「信仰年」は、全教会を、現代世界における自らの存在と、諸民族と国々への宣教についての新たな自覚へと促しました。宣教地とは、地理的な場所を指すだけではなく、人々、文化、個人のことで、なぜならば、信仰の「境界線」とは場所や人間の伝統にあるだけではなく、すべての人々の心にあるからです。第二バチカン公会議は宣教の仕事の特別なあり方を強調しています。すなわち、「神の民が種々の共同体、なかでも教区と小教区との共同体の中に存在し、そこに、ある意味で可視的なものとして現れ」て以来、すべての受洗者と、すべてのキリスト者の共同体における信仰の

境界線の広がりとは、「諸国民の前にキリストのあかしを立てる」ことにかかっているのです(『教会の宣教活動に関する教令』37)。ですから、すべての共同体は、イエスによって使徒にゆだねられた使命、すなわち「エルサレムばかりでなく、ユダヤとサマリヤの全土で、また、地の果てに至るまで」イエスの「証人となる」(使徒言行録1:8)ということを開かれ、また招かれてはいるのです。そしてそれはキリスト者の生活において二次的なものではなく、本質的なものなのです。すなわちわたしたちは皆、兄弟姉妹と世の道を歩み、キリストに對するわたしたちの信仰をあかしし、宣言し、キリストの福音の使者となるように招かれてはいるのです。わたしは司教、司祭、司祭評議会、司牧評議会、教会の責任を負うすべての人と団体に、養成や司牧のプログラムにおいて宣教の側面に重要な位置づけを与えるように促します。使徒的な責務は、諸国や全民族の前でキリストを証しする努力なしに成し遂げられることはありえないからです。この宣教の姿は、キリスト者の生活の内、単にひとつの計画というにとどまらず、キリスト者の生活のすべての面に影響を与える枠組みとなるものなのです。

3. 福音化の仕事はたびたび外部にだけではなく、教会の共同体内部において障害に出くわします。キリストのメッセージをすべての人に告げ、現代の人々とキリストとの出会いを提供するということへの熱心さ、喜び、勇気と希望が時々欠如しています。また時折、福音の真理を告げることが自由の侵害を意味する、というようにいまだに考えられてしまうことがあります。パウロ6世はこれについて雄弁に語っています。「確かに、兄弟の良心に何かを強制的に押しつけることは間違いでしょう。しかし、彼らの良心に対して、自由な選択の権利を十分尊重しながら、福音の真理とイエス・キリストの救いを提供するならば、それは、その自由を完全に尊敬することになります」(教皇パウロ6世使徒的勧告『福音宣教』80)。わたしたちはつねにキリストとの出会いを勇気と喜びをもって提供しながら、福音の使者とならなければなりません。イエスはわたしたちの間に来て、救いの道を示し、地の果てに至るまですべての人がそれを知ることができるようになりました。大抵は、そのように強調され企てられたことは誤りであり、嘘であり、暴力であるとわたしたちは考えます。わたしたちの時代において福音のすばらしさを告げ、証言することとは緊急を要しており、それは教会内部から始めなくてはなりません。この意味で、すべての福音宣教師にとつて忘れてはならないひとつの根本的な原則があります。それは、人は教会なくしてキリストをのべ伝えることはできないということです。福音化は孤立した個人的、また私的な行いではありません。それはつねに教會的なものなのです。パウロ6世は以下のように書き記しています。「遠く離れたへんびな所で、ひとり福音を説き、小さな共同体を集め、秘跡を授けている無名の説教者、カテキスタ、牧者も、まさに教会の活動をしているのです」。彼らは「自分勝手に仕事をしているわけではなく、また個人的な思いつきで行っているわけでもなく、教会との交わりの中で、教会の名によって教会の使命を果たしているのです。」(同60)そしてこのこ

とが宣教に強さを与え、すべての福音宣教師は孤独ではなく、聖霊によって息吹を吹き込まれた一つの体の一部であると感ずるのです。

4. わたしたちの時代においては、大きく発達した交通と新しいメディアによるコミュニケーションの利便は、多様な人々、知識、経験を巻き込んでいます。仕事のために一家で大陸を渡り歩く家族がいます。職業的、文化的な交流、旅行などさまざまな目的が人々の大移動を促しています。このことが、小教区において、一体誰が継続的にまた一時的に、その地域に住んでいるのかをわかりにくくしています。以前は伝統的にキリスト教地域であった大部分でも、信仰にまつたく触れたことのない人々や、宗教的な事柄に無関心であったり、また他の信仰に惹かれたりする人々がますます増えていきます。それゆえ、洗礼を受けているにもかかわらず、自分自身、信仰から離れたライフスタイルを選択しているというような人々も稀ではないのです。ですから、かれらは「新しい福音宣教」を必要としています。これらに加え、イエス・キリストの福音は人類の大部分にいまだ届けられていないという事実があります。わたしたちは、生活のさまざまな分野に及ぶ危機の時代に生きています。それは経済、財政、また食品の安全、環境においての危機ばかりではなく、いのちの深い意味、またいのちを生き生きとさせる根本的な価値に関する危機です。実に、人類の共存は、安定した平和への道を見出すには不安定で困難な緊張と争いによって特徴づけられています。現在と未来への道の展望が不穏な雲によって脅かされているように見えるこのように複雑な状況において、どの

ような現実にあつても、キリストの福音、すなわち希望、和解、交わり、神の近き、神の恵み、神の救いのをのべ伝えるということが必要なのです。神の愛の力が悪の暗闇に打ち勝ち、よい道へわたしたちを導いてくださると告げることです。わたしたちの時代において人類は、この道を照らし、キリストとの出会いの光が与えることのできる確固たる光を必要としています。信仰によって与えられたわたしたちのあかし、愛、希望によってそれを世界にもたらしましょう。教会の宣教とは改宗活動ではなく、希望と愛をもたらし、道を照らす生活のあかしなのです。もう一度繰り返していいいますが、教会とNGOではなく、聖霊に導かれたことのない人々や、宗教的な事柄に無関心であったり、また他の信仰に惹かれたりする人々がますます増えていきます。それゆえ、洗礼を受けているにもかかわらず、自分自身、信仰から離れたライフスタイルを選択しているというような人々も稀ではないのです。ですから、かれらは「新しい福音宣教」を必要としています。これらに加え、イエス・キリストの福音は人類の大部分にいまだ届けられていないという事実があります。わたしたちは、生活のさまざまな分野に及ぶ危機の時代に生きています。それは経済、財政、また食品の安全、環境においての危機ばかりではなく、いのちの深い意味、またいのちを生き生きとさせる根本的な価値に関する危機です。実に、人類の共存は、安定した平和への道を見出すには不安定で困難な緊張と争いによって特徴づけられています。現在と未来への道の展望が不穏な雲によって脅かされているように見えるこのように複雑な状況において、どの

諸国民への宣教の呼びかけを支持し、キリスト者の共同体を力づける司祭、修道者、信徒を必要としている諸教会を支援するよう招きます。このような意識が同じ司教協議会や管区の教会の間にもあるべきです。なぜなら、召命の豊かな教会が召命の不足に苦しむ教会をもっと惜しみなく助けることが重要だからです。

同時にわたしは、宣教師、とりわけフイデイ・ドヌムの司祭と信徒の皆さんに、自分たちの派遣された教会で、貴重な奉仕を喜んで生きるように、また出身教会に自分たちの喜びと経験をもたらし、それを強く勧めます。パウロとバルナバが最初の宣教旅行の終わりに、「到着するとすぐ教会の人々を集めて、神が自分たちとともにいて行われたすべてのことと、異邦人に信仰の門を開いてくださったことを報告した」(使徒言行録14:27)ということを思い出してください。彼らは若い教会の元気をもたらすことで、いわば信仰の「回復」の道となることができます。こうして古くからのキリスト教会は主の道に従う旅において、互いを豊かにする交流のなかで、信仰の分かち合いの喜びと熱意を再発見するのです。

全教会に対して、ローマの司教が兄弟である司教たちと共有している関心事は、教皇庁宣教師援助事業の実施に委ねられている大切な事です。それはすべての受洗しているキリスト者と、すべての共同体に宣教への意識を息吹かせ、深めるためのものです。神の民全体、宣教に向けてのより深い養成の必要性を思い起こさせること、また福音を世界に広げるのを促す助けとなるキリスト者共同体の感覚を養うことでなしとげられるものです。

最後に、世界のさまざまな場所で、信仰を公言し、周囲から認められ、尊厳をもって生きる権利を享受するのが困難な状況にあるキリスト者に思いを馳せます。彼らはわたしたちの兄弟姉妹であり、勇気ある証人―数としては初期の殉教者よりも多い―で、使徒的な忍耐をもって現代のさまざまな迫害に耐え抜いています。キリストの福音に忠実にとどまるために、いのちを脅かされている人々も決して少なくはありません。わたしは祈りの内に、暴力と不寛容に苦しむ方々、ご家族、共同体の皆様とともにいることをお約束いたします。そしてイエスの慰めのことばを繰り返していいいます。「勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」(ヨハネ16:33)。

ベネディクト16世は以下のことを強く勧めています。『主のことばが速やかにのべ伝えられ、あがめられるように』(ニテサロニケ3:1)。「信仰年」が、わたしたちの主キリストとの関係をますます強めてくれますように。キリスト以外に、未来に向かうための保証、真実で永遠の愛の保証はないからです」(教皇ベネディクト16世自発教令『信仰の門』15)。これがわたしの今年の世界宣教の日の願いです。わたしは、宣教師と世界のあらゆる場所へ福音を告げるこの教会の根本的な責務に関わり、支えてくださるすべての人々を心から祝福します。そして、福音に奉仕し福音を告げる者であるわたしたちは、「甘美と慰めに満ちた福音化の喜び」(パウロ6世『福音宣教』80)を経験するようになるのです。

バチカンにて
2013年5月19日
聖霊降臨の祭日

2013年度 第2回司祭評議会開催

2013年度の第2回司祭評議会が、9月10日（火）司教館にて開催され、都合により欠席した以外の14人の評議員の司祭が参集した。

まず、10月20日（日）に教区難民移住移動者委員会主催の国際ミサが大名町教会にて行われる事が確認され、ポスターを各小教区に配布、参加を呼びかけることとなった。

次に、山田成章神父の葬儀を受けて、今後の司祭の葬儀について、基本となるマニュアルを取り決めることとなった。検討委員会をたちあげ、松永久次郎司教の時代に作成されていたマニュアルを元に検討し、次回の司祭評議会の時に審議することとなった。

また、10月の司教総会の時に教皇フランシスコを日本に招待することについて話し合うことになったことを受け、意見交換を行い、賛否両論の参考意見が出された。

福岡教区年間テーマ「キリストの救いの秘義を知り、追体験し、生き、伝える」をこの3年間同じテーマで取り組み、全体的な底上げに取り組んできた。来年の教区のテーマについて、たとえば具体的

典礼シリーズ ⑭

【質問】

普通、「ミサに与る」という表現をわたしたちはします。が、適当でしょうか。何か受け身的な響きがあつて、司祭とともに「ささげる」などの表現はいかがでしょうか。「ミサを拝む」とか、「ミサが挙がる」という表現も聞いたことがありますが、その是非について教えてください。

【質問に答えて】

言葉遣いには、しばしば個人的な理解の響きに差違がありますので、あくまでも、一つの参考意見として答えさせていただきます。『ローマ・ミサ典書（総則）』16に、「ミサの祭儀は、キリストの行為であり、位階によつて秩序付けられている神の民の行為」であるという説明があります。

ミサは、①何よりもまず「キリストの行為」です。これについて『カトリック教会のカテキズム』は、次のように教えています。感謝の祭儀（ミサ）は、「十字架上でキリス

ミサを中心として駐日教皇庁大使が福岡教区を公式訪問することになったことが報告され、スケジュール案が説明された。

また、準備の進む、教区の日と、2014年9月の正義と平和協議会全国大会についての進捗状況についても確認が行われた。

11月16日に献堂式予定の旧ザビエル聖堂について、御受難会中村克徳神父より現状と課題について報告があり、それを受けて、今後の活用方法など意見交換を行い、次回の司

世界遺産推薦を目指してシンポジウム



今年度の日本の世界遺産推薦として「明治日本の産業革命遺産」が選ばれたことはすでに報道されている通りではあるが、今回選ばれなかったも

た崎津集落も含まれている。この崎津集落の世界遺産登録を目指し、9月1日（日）に河浦町崎津の富津地区コミュニティセンターにおい

う一つの候補としてあげられていたのが、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」であつた。この中には、天草の崎津教会を中心とし

祭評議会でも継続して審議することとなった。最後に、来年のNHKの大河ドラマは「軍師官兵衛」だが、黒田官兵衛はキリシタン大名として、最後まで信仰を守り抜いた立派な人でもある事が紹介された。宮原司教から、墓所である崇福寺に、諸宗教対話の一環として、花祭りにあつたの教皇メッセー

トによつて成就された救いの秘跡」（1359）です。したがつて、ミサは「十字架上のいけにえを現在化し、記念し、その実りを分け与える」（1366）のです。この観点からすると、ミサは十字架上で自身をおささげになったキリストの自己奉獻（いけにえ）が、パンとぶどう酒というしるしのもとに現在化されて記念され、その恵みが分配されることであるため、司式する司祭にとつても参加する信者にとつても、ミサにあずからせていただくという表現は、可能な言葉遣い

の一つではないでしょうか。同時にミサは、②「神の民の行為」でもあると教えられています。神の民のメンバーは、それぞれ固有の役割を果たしながら、神の民（教会）の頭であるキリストの行為に結ばれます。これについて『カトリック教会のカテキズム』は、次のように教えています。「キリストのからだである教会は、その頭の奉獻とともにします。キリストとともに、教会全体がささげられます。：エウカリスチア（感謝の祭儀）では、キリストのいけにえはまた、そのからだに

て世界遺産シンポジウムが開催された。前奈良大学学長鎌田道隆氏の「世界遺産と地域の暮らし」と題する基調講演の後、宮原司教をはじめ、天草市長（安田公寛氏）、石見銀山資料館館長（仲野義文氏）、地元公民館長（中村美生氏）の4人によるパネルディスカッションが行われた。その中で宮原司教は、崎津教会が世界遺産に登録されることについて教区の立場を示した。その中で「時間と空間と地域を越えて広がり、伝承されたこの『信仰の営み』が人類の遺産として世界的に評価されることは大変名誉なことであり、ありがたいこと。歴史的、文化的、精神的、倫理的、宗教的な意味と内容が、世界遺産を通じて、より多くの人に知られ、理解され、評価されることは素晴らしいことである」と語った。他方、「世界遺産に登録されていない現在の状況においてさえ、様々な弊害がある。例えば、聖堂は、信徒にとつて聖なる祈りの場であるにもかかわらず、観光客の増加に伴い、その教会の本来の目的が損なわれるなど弊害が大きくなる」と予想される。不賛同であるとするれば、それは世界遺産

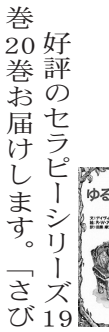
の趣旨や内容など本質に関わることはなく、登録に付随する弊害の大きさと改善策が見えないことに由来している。それらが克服されるのであれば、賛同することも可能である」と述べた。さらに、今後の方向性として、関係各位の連携と協働による弊害の克服が急務である。過疎化の流れを防止し、若者が希望と誇りを持って安心して暮らせる、魅力あふれる地域にするために具体的な対策と対応が必要である。聖堂の存在目的は、信者にとっては目に見えない信仰の営みの場所であり、単に観光名所として見ていただくたくないという教会の立場として明らかにした。

柴山 智美

シスターウエンセラス 聖母訪問会のシスターウエンセラス柴山智美は9月6日（金）新田原聖母病院で脳出血のため帰天。享年88歳。1954年3月聖母訪問会に入会。

古賀教会主任司祭P・ジュード神父のご母堂、ミケーリヤ氏が9月13日にスリランカで帰天。享年85歳。

「ミサを拝む」、「ミサが挙がる」という表現については、注意が必要ではないかと思ひます。ミサにおいて信者は、聖霊に支えられ、キリストを通して、父である神を礼拝するのであつて、ミサそのものを拝むのではないからです。また「ミサが挙がる」という言葉には、ミサは司祭によつて挙げられる（立てられる）もので、ミサに対して信者は第三者（傍観者）的な態度で構わないという響きに受けとめられないでしょうか。日本カトリック神学院 院長 白浜 満神父



好評のセラピーシリーズ19巻20巻お届けします。「さびしさ」の向こうに真の生活があります。また「ゆるす」ことによつて真の幸せがあります。賢明なエルフ（妖精）とともに、自分自身との、人々との、神とのつながりを見いだす道を探しましょう。英語対訳付。

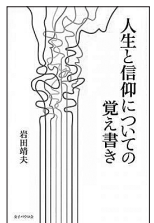
サンパウロ 発行 税込価格 各735円 入門Ⅱ イエス登場！ 来住英俊 著



キリスト教の力動性は「人となった神」イエス・キリストの振る舞いと言葉の中に現れている。第1巻に続き、キリスト教は何を問題にしているのかを真正面からとらえるシリーズ第2巻。

ドン・ボスコ社 発行 税込価格 735円

★人生と信仰についての覚え書き 岩田靖夫 著



人の安らぎはどこにあるのか。大災害、運命、死、罪、救い、霊性、自己、宇宙、存在、などの根本問題を信仰の地点から考える。 女子パウロ会 発行 税込価格 1365円

不動産全般/売買・賃貸・管理
なんでもお問い合わせください
(株)ジャパン・スマイルか
代表取締役 マルガリタ・マリア 吉田由利子
〒810-0044福岡市中央区六本松4丁目9番4号
TEL 092-761-8800
http://www.iruka-japan.com/

FPC 福岡プライマリケア訪問看護ステーション
自宅で療養されている方、在宅で看取りたい方、精神障害の方など、病気について、介護方法について専門的指導や援助が必要な方はご相談ください。費用は医療、介護保険でのご利用になります。
春日市天神山 7-91 092-517-6313
福岡プライマリケア株式会社 代表：エリザベト熊谷

総合建築業
・一般住宅（新築・改築工事）
・鉄骨工事
・RC工事
建築の事なら何でもお気軽にご相談ください
有限会社 森山工務店
ヨゼフ 森山新太郎
福岡市早良区四箇1丁目15番28号
☎ (092) 811-7265

本との出会い 人との出会い 神との出会い
セント・ポール
FUKUOKA
キリスト教書籍・信心用具・ビデオ・DVD・CD
福岡市中央区大名2-7-7 大名町カトリック教会1F
平日/AM 10時~PM 5時40分
日・祝日/AM 11時~PM 4時（水曜日定休日）
TEL 092(741)4588 FAX 092(741)4601
URL: http://www.pauline.or.jp

救いの秘儀を知り、追体験し、生き、伝える Ⅲ

福岡地区聖書講座

年間テーマ：福音 ～イエスとの出会い
特別講演「病といやし」について
日 時：11月17日(日) 14:00～16:00
講 師：稲津佳世子氏(心療内科ホームケアクリニック院長)
場 所：カトリック大名町教会1階講堂
主 催：福岡地区信徒使徒職協議会 聖書典礼部会

北九州地区聖書講座

年間テーマ：共に学び、生活の場で伝えよう
～『ルカ福音書が呼びかける信仰』～
日 時：11月17日(日) 14:00～16:30
講 師：今田昌樹神父(笹丘教会)
場 所：カトリック小倉教会
主 催：北九州地区信徒使徒職協議会 聖書部会

熊本地区神学講座

日 時：10月27日(日) 13:30～16:00
場 所：カトリック手取教会聖堂
テーマ：食と霊性
講 師：辰巳芳子氏(料理研究家・作家)
伊藤幸史神父(東京教区)
対 象：味噌汁を上手に作りたい人
定 員：200名(要申込み・先着順)
参加費：1,000円
申込先：FAX 096(352) 1515
問合先：☎ 096(352) 3030 手取教会 岸・平田
※10月26日の健軍教会での特別講演会は、定員に達しましたので締め切らせていただきました。

2013年 教区の日

教区としての一年の歩みを振り返り、ともに神様に感謝をささげましょう。今年は「信仰年」の教区としての閉幕を合わせて、全信者を対象に開催されます。
日 時：11月23日(土・勤労感謝の日)
10時30分～15時
みことばの祭儀：10時30分～11時
第1部：講演会 11時～12時
講 師：フランコ・ソットコルノラ神父(真命山院長)
昼食・休憩：12時～13時30分
弁当は各自持参。
休憩中司祭がゆるしの秘跡を聞きます。

第2部：感謝と信仰年閉幕のミサ 13時30分～15時
場 所：カトリック大名町教会
※どなた様も自由に参加できます。ご参集ください！
※駐車場は遠方からの方のために割り当てられ、福岡地区の方は駐車できません。司教館の駐車場を開放します。

信仰年閉幕特別講演会

日 時：11月20日(水) 10:00～12:00
場 所：日本カトリック神学院福岡キャンパス聖堂
講 師：宮川俊之神父(長崎教区)
参加費：無料
申込み：ファックスにて氏名と連絡先をお知らせ下さい
申込先：FAX 092(863)6329
主 催：日本カトリック神学院福岡キャンパス

震災のための祈りのリレー

日 時：10月11日(金)
場 所：7:00 ミサ 純心聖母会川内修道院
～19:00 夕の祈り(カトリック八代教会)
問合せ先：fr05abe19ko@yahoo.co.jp /Br 阿部光一

福岡教区広報室アドレス
http://fukuoka.catholic.jp
E-mail: cdf-kouhou@nifty.com

案 内 板

会合と催し

10月のこよみ

福岡黙想の家ご案内 10月

1日(火)～7日(月) 聖マリア在俗会黙想会 (空室5)
9日(水) 福岡クリアー日黙想会
11日(金)～22日(火) 御受難会アジア会議 (空室0)
25日(金) 福岡チェナクルム
26日(土) 箱崎教会研修
28日(月)～11月1日(金) 福岡教区司祭黙想会 (空室0)
2日(土)～4日(月) 在世カノッサ会研修 (空室5)
9日(土)～10日(日) 山口島根地区信者養成研修会 (空室0)
※日帰り黙想会(10時～15時30分)・一泊黙想会(15時～翌日15時)
参加者募集中です！
*利用予定によっては充分余裕がある場合があります。
*宗像市名残1056-1 ☎0940・32・3222 FAX0940・32・3385
Email: fmokuso@mvi.biglobe.ne.jp

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

※祈りの集い
年間テーマ：イエス様に祈りを学ぶ
・日 時：10月10日(木) 10時～15時
・内 容：神との関係における沈黙の大切さ
指 導 者：フランコ・ソットコルノラ神父(真命山院長)
問合せ先：真命山諸宗教対話・霊性交流センター
・次 回：11月14日(木)
☎0968・85・3100 FAX 0968・85・3186・玉名郡和水町蜻浦
1391-7・E-mail shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

カテドラルでのゆるしの秘跡

日時：10月5日、19日、11月2日 10時～12時
場所：カトリック大名町教会小聖堂

福 岡

◆ 第60回福岡典礼聖歌研修会
(日時) 10月6日(日) 14時(場所) 光丘教会(テーマ)「信仰年にあたって」―第2バチカン公会議と典礼聖歌―(講師) 深堀純氏(参加費) 自由献金(問合せ先) ☎092・541・3730 松山
■ グレゴリオ聖歌を歌う会
(日時) 10月15日(火) 11時(場所) 聖クララ寮(内容) グレゴリオ聖歌講習会(講師) シスター平戸京(シヨファイユの幼きイエズス会)(問合せ先) ☎096・380・5686 堺
■ 聖書に集う会
(日時) 10月17日(木) 18時30分(場所) サンパウロ福岡宣教センター3階会議室(講師) 鈴木信一神父(聖パウロ会)(問合せ先) ☎092・721・2031 聖パウロ修道会
■ ザビエル合唱団練習日
(日時) 10月19日(土) 13時30分(場所) 大名町教会4階(参加費) 1000円(問合せ先) ☎080・5246・839 5橋本
■ 福岡教区国際ミサ
(日時) 10月20日(日) 13時レセプション、15時宮原司教主司式ミサ(場所) 大名町教会(主催) 福岡教区難民移住
動者委員会(問合せ先) ☎092・431・1419 マルセル神父
■ 在セフランススコ会集会
(日時) 10月20日(日) 14時から16時(場所) 高宮フランススコ会修道院在世会集会所(指導) エドウィン神父(高宮教会主任)(問合せ先) ☎092・843・5831 岩崎
■ FYC C11報告会
(日時) 10月20日(日) 15時(場所) 大名町教会4階(参加費) 100円(主催) 福岡地区青年会(問合せ先) ☎090・5298・9350 豊嶋
■ 聖霊による信仰生活刷新セミナー
(日時) ①10月21日(月) ②10月28日(月) 10時30分(場所) 大名町教会1階(テーマ) イエスのいやす愛(講師) マッケイ神父(鳥栖教会)(問合せ先) ☎092・521・2503 蓮尾
■ ラスキン 黙想と祈りの集い
(日時) 10月25日(金) 20時。毎月最後の金曜日(場所) 大名町教会小聖堂(内容) テゼの祈りに倣った祈りと黙想(問合せ先) ☎090・2305・5191 ブラザー 阿部
■ 召命の集い2013
(日時) 11月4日(月・振替休日) 9時30分から15時(場

所) 日本カトリック神学院福岡キャンパス(問合せ先) ☎092・871・4943
■ 福岡ホスピスの会勉強会
(日時) 11月10日(日) 14時(場所) 大名町教会4階(テーマ) ホスピスからの便り(講師) 稲吉千鶴氏(村上華林堂病院緩和ケア病棟師長)(会費) 一般1000円、会員500円(問合せ先) ☎092・791・7532
■ 虹の会 子どもを亡くした親の会
(日時) 11月16日(土) 13時30分(場所) 大名町教会3階会議室(参加費) 600円(茶菓子代含む)。17時30分より希望者のみの懇親会(別途会計)(問合せ先) ☎090・1162・6395 柴田
■ エリザベト音楽大学創立65周年記念特別演奏会福岡公演
(日時) 11月16日(土) 15時(会場) 福岡シンフォニーホール(入場料) 1000円(出演) 山下一史指揮、ピアノ末政優衣、エリザベト音楽大学交響楽団(問合せ先) ☎082・225・8004
■ 美野島司牧センター
●ホームレスの方に手作りお昼ごはん。毎週火曜日10時30分●路上からアパートに入居した方を訪問第3土曜日13時(問合せ先) ☎092・431・1419 M・コース神父
◆ 北九州
■ 北九州召命を共に祈る会
(日時) 10月4日(金) 10時(場所) カトリック新田原教会(内容) ミサ(司式) 杉原寛信神父(新田原教会)(連絡先) ☎0949・24・9905 藤井
■ 小倉祈りの集い
(日時) 10月18日(金) 13時30分(場所) カトリック小倉教会信徒会館2階(指導) ガブリエル神父(御受難会(内容)『みことばを味わう』賛美と感謝の祈り(連絡) ☎090・3985・5209 松田
■ 主日の福音を味わう集い
(日時) 10月27日(日) 14時(場所) コングレガシオン・ド・ノートルダム修道会千防修道院(問合せ先) ☎093・884・0506 シスター 高橋
◆ 佐賀
■ 佐賀祈りの集い
(日時) 10月5日(土) 10時。毎月第1土曜日(場所) 佐賀カトリック会館(内容) ミサと祈り(問合せ先) ☎0952・30・8347 吉武
◆ 熊 本
■ 熊本地区召命を共に祈る会
(日時) 10月17日(木) 10時(場所) 健軍教会(問合せ先) 健軍教会 ☎096・368・2825 青木悟神父

編集後記

「信仰年を旅するために」のシリーズは前号をもって終了いたしました。ご寄稿いただきました皆様にも心より感謝申し上げます。新しいシリーズとして、稲垣良典先生(古賀教会)に「カテキズムを学ぶ」と題して執筆をお願いいたしました。稲垣先生は先般、聖トマス・アクイナスの「神学大全」の翻訳という大事業を終えられた世界的な哲学者です。ご期待ください。

COSMOS
スポーツ用品・OA・文具 **コスモス**

〒830-1224 三井郡大刀洗町鶴木67-3
TEL 0942-77-3199
代表者 ベトロ 平田 清

社会医療法人 雪の聖母会
聖マリア病院

医科・歯科臨床研修指定病院 総合周産期医療センター
地域医療支援病院 がん診療連携拠点病院
救命救急センター 地域災害拠点病院

*入院基本料(一般病棟7:1)
〒830-8543 福岡県久留米市津福本町422
TEL0942-35-3322(代表)
FAX0942-34-3115
http://www.st-mary-med.or.jp

痛みの相談室
いくま整骨院

平日：9:30～12:00
14:30～20:00
土曜：9:30～15:00
休診：日曜・祝祭日

福岡市西区姪浜駅南1-7-12-2F
TEL 092-884-0134
ペトロ 生熊 公吉



Ave, Maria,
Ora pro nobis.

10月の休業日 6, 13, 14, 20, 27

メディアによる福音宣教のために...



サンパウロ福岡宣教センター

10:00～18:00(月～土) / 日・祝日休業 / 地下鉄赤坂駅より徒歩3分 *駐車場完備
〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-14-26 ☎092-721-2032 fax.739-3930